

横須賀ソフトボール協会
会長 青木 哲正



横須賀ソフトボール協会 会長の青木哲正です。ご案内の通り、当協会は令和3年において協会発足70周年を迎えました。これも、当協会の

長年の活動に、関係の皆様方の大きなご理解とご協力をいただくことで、無事に70年を経過することができました、会員とともに役員一同、大変な感謝を感じ改めて御礼申し上げます、ありがとうございました。

令和2年当初から世界中にまん延し始めた、新型コロナウイルスの感染症については、わが国のすべてのスポーツ界に激震を起こしました。この記念誌が発行される頃にコロナワクチン接種の効果が出始め、コロナの感染拡大に収束が見え始めていることを期待しております。

この感染症の流行が、我々人間にとって、どれほど普段の人々との触れ合いが、必要であり心温まるものであったのか、改めて、ソフトボールの競技をとおして感じさせられるものでした。競技としては、太陽のもと、グラウンドで1つのボールを追いかけ、スピードあふれる競技の中で、投げ合い、打ち合い、走り回る、そしてぎりぎりの接触プレーを楽しみながら、人との交流を温めあうスポーツであることを再認識しました。感染拡大の防止のため、多くの公式戦が中止となり、普段の活動ができずに、ストレスがたまる時間が続きました。しかし、必ず解決の道は示されると思います。ソフトボールは幼児から高齢者まで一生のスポーツと言われております。こういう時こそ、ソフトボールの楽しさと、老若男女誰でも楽しめるスポーツであるということを広く市民の皆様にお伝えして、今後の横須賀ソフトボール協会の糧としていきたいと思っております。改めて、当協会への今後のご理解とご協力をお願い申し上げます。

横須賀市市長 上地克明



この度、横須賀ソフトボール協会が創立70周年を迎えられ、記念誌が発刊されますことに心からお祝い申し上げます。

2020年は新型コロナウイルスが世界的に猛威を振るい、その勢いは衰えることなく一年が経過しました。東京2020オリンピックをはじめとした多くの大会が中止もしくは延期を余儀なくされ、感染症の恐ろしさを改めて痛感しました。

スポーツには人に元気を与える力があると思っています。小学生ソフトボールチームの「横須賀女子」が県大会優勝を果たし、その報告のために訪問してくれました。明るいニュースに私も元気を貰いました。

東京2020オリンピックでは、ソフトボール競技が2008年の北京オリンピック以来、3大会ぶりに競技種目となりました。この背景には、貴協会のように長きにわたり競技の振興に尽力されている方々がいらっしゃるからであると私は思います。

結びになりますが、横須賀ソフトボール協会のさらなるご発展を心より祈念しまして、私の挨拶とさせていただきます。

横須賀市体育協会会長 竹内英明



横須賀ソフトボール協会の創立七十周年おめでとうございます。

心よりお祝い申し上げます。昭和二十六年は私にとっても生まれた年で

あり、真に七十年の月日とともに歩んで来た感があり、振り返ると、長いようで短い、短いようで長い、そんな感慨を深くしたところであります。貴協会においても戦後の整理も未だおぼつかず、人々も焦燥感に駆られ、明日への一步を希望をもって踏み出そうとしている中、ソフトボ

ールへの情熱や仲間たちとの絆が原動力になったと想像することは難しくありません。

そのことに思いをはせると、協会の関係者、選手の皆様方の昭和・平成・令和へと時代を駆け抜き多くのご苦勞を乗り越え、熱い想いを継がれてきたことに心から敬意を表せずにはられません。

横須賀市体育協会にとっても大きな礎のひとつになったに違いありません。

これからも共に横須賀市を「スポーツで元気にする」という想いを共有しながら、今後の貴協会の益々のご活躍を心よりご期待申し上げ、七十周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

神奈川県ソフトボール協会
理事長 松山 玲子

横須賀ソフトボール協会が創立70周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。奇しくも70周年記念の年に、一年延期となった「2020東京オリンピックパラリンピック」



ソフトボール競技が横浜スタジアムで開催されますことは二重の喜びであります。

昭和26年4月中学校女子、高等学校女子が学校教育の現場から始まり横須賀ソフトボール協会が設立されたと伺いました。以来、70年にわたりソフトボール競技の競技力向上、普及振興にご尽力をいただきました歴代会長をはじめ協会の方々の並々ならぬご努力の賜物と深く敬意を表すとともに感謝申し上げます。

地元の中学校を卒業された、高山樹里選手(シドニー・アテネ)、西山麗選手(北京)は、オリンピックに出場し活躍されました。現在では

指導者としてソフトボールの普及発展に貢献されております。実業団男女、教員、家庭婦人、少年・少女と輪が広がり、常に県協会代表として関東大会、全国大会に出場するチームを輩出しております。特に、湘南なでしこは全日本エルデスト大会において三連覇を成し遂げるなど素晴らしい成績を残しております。

平成30年9月マウンドのないソフトボール球場夏島グラウンド 2面がオープンして多くの大会が開催され、益々のご活躍が期待されます。

全世界がコロナウイルス感染に未曾有の時を過ごしておりますが、一日も早く日常の生活に戻るよう願っております。

私たちは、老若男女が楽しめるソフトボールという競技が持つ真の魅力と楽しさを発信し、新たな競技人口の獲得やさらなる普及・発展にお互いに努力してソフトボールの仲間を増やして行きましょう。最後に、横須賀ソフトボール協会の益々のご発展とご活躍を祈念してごあいさついたします。

横須賀ソフトボール協会
副会長 清田 一正

横須賀ソフトボール協会創立70周年おめでとうございます。昭和26年(1951年)4月片倉



茂(故人)、澤田 賢昭、山根 康昭(故人)等のご尽力により組織を作り神奈川県ソフトボール協会に加盟して70年の月日が経過致しました。発足当初は、中学校、高等学校等のグラウンドを主に使用して大会等を開催していました。ソフトボール専用球場が無い為、野球協会と協力して野球場(不入斗野球場、追浜運動公園、大津運動公園、衣笠グラウンド、神明公園グラウンド等)を共有して使用してきました。

私が協会との関わりを持った当時(昭和 50 年頃)は、協会主催の春季大会はブロック制(1ブロック6~8チーム)で開催されていました・参加チーム数は80~100と多くトーナメント戦では消化出来ずブロック制を採用して開催しておりました。(グラウンド確保、日程等の関係で)

少子高齢化の波に押されソフトボール競技人口の減少は目を覆う時となっております。当協会も平成 30 年(2018 年)現在チーム登録数は一般男子(28 チーム)、一般女子(14 チーム)と減少。特に、小学生男子、中学生女子、高等学校女子は激減の一途をたどっています。歯止めには如何にソフトボールの魅力等を子供達に伝え普及させる事業を行うことだと思います。2008 年北京オリンピックで金メダルを獲得した時の感動を再び 2020 年(開催は 2021 年 7 月)東京オリンピックでその雄姿を国民の目に焼き付ける事が大切だと考えます。

70年の歳月を振り返ると昭和、平成の時代には、中学校の関東大会(不入斗野球場を中心に)、高等学校の関東大会(追浜運動公園を中心に)、国体の関東ブロック大会(不入斗野球場、追浜公園野球場)、全国高等学校男子選抜大会(追浜公園野球場)等数多くの大会を開催いたしました。これらは、今後、協会役員の競技運営に携わる為に多くの財産を残してくれました。

ソフトボール競技の普及、発展の為に技術講習会の開催(講師等は、県協会に依頼)等チームの競技力向上に力を注ぎました。また、審判員、記録員の高齢化に伴い認定会の開催で人員の確保に努めています。登録チームより最低1名の公認審判員の資格を取得するよう認定講習会(3種)を開催し現在120余名が登録しています。

ここ10年間では、競技力向上に伴い県内予選会で優勝し全国大会、関東大会に出場するチームを輩出しています。家庭婦人では、“湘南なでしこ”が全国エルDEST大会で3連覇(2

012年、2013年、2014年)、高校男子では“横須賀学院”が関東大会に出場、女子では“湘南女子”が全国大会に出場、少年では、男子“横須賀”、女子“横須賀女子”、一般男子では、“ヤングース”、“横須賀ブービーズ”が全日本一般男子に出場、また横須賀 HOMIES を中心に編成して支部対抗に初優勝したことは特記すべき事柄です。

競技力の向上は、一般男子に関しては二部制を取り入れた事が刺激になっていると思います。一部5チーム(春季リーグ戦)、二部(一部以外)トーナメント戦で大会を開催し、入れ替えを導入(一部下位2チームは、自動的に二部へ、二部の優勝、準優勝チームは、次年度一部に昇格)。

平成 25 年(2013 年)佐野 幸夫様 終身審判員、森田 君枝様終身記録員として(公財)日本ソフトボール協会より表彰される。平成 27 年(2015 年)理事長 唐澤 清男様 県体育功労者として県教育委員会より表彰される。平成 29 年(2017 年)副会長 清田 一正様 県体育功労者として県教育委員会より表彰される。令和元年(2019 年)9月には、長年の夢でありました専用グラウンドが追浜アイクルの隣に2面(マウンド無し)完成し現在各種大会、研修会等に有効に使用されています。

令和 2 年(2020 年)は新型コロナウイルスの感染が全国的に蔓延し各種大会が中止となりました。

最後に、色々と変動する社会情勢において私たちは、ソフトボール競技の楽しさ等を再認識して益々普及発展することを願い創立70年を契機として良き伝統を継承しつつ横須賀ソフトボール協会のさらなるご発展と会員のみなさまのますますのご活躍をお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

70周年を迎えて

横須賀ソフトボール協会
顧問 松井 哲三



昭和26年4月、当時の岡本会長を中心に発足した本協会はこの度、70周年を迎えました。この間時代の大きな変化の中、協会を維持し続けてこられたことは、誠に意義深いものであると考えます。これもソフトボールに関わる多くの方々のご理解とご協力に依って成し遂げられたものであると思います。

この永い歴史の中では環境や社会情勢等の変化により横須賀のソフトボールを取り巻く状況も様々な変遷を続けてきました。そして現在では競技や生涯スポーツとしてソフトボールが多くの人に親しまれるようになっていきます。こうした中でも一貫して変わらないのが横須賀ソフトボールを愛する気持ちがあります。

一般男子チーム26、女子12、小学生18 特選抜チーム「横須賀」は全国優勝数回、特に指導者の方々の思いは技術面だけでなく精神面(すばらしい大人に育てよう)そんな気持ちが伝わって来るようです。又、横須賀女子小学生チームも神奈川はもちろん関東地区でも強いチームと思われています。

昭和54年には横須賀家庭婦人ソフトボール連盟が発足され、働くお母さん達が健康面だけでなく楽しくソフトボールをしようと、今では春と秋のリーグ戦まで開催をしています。

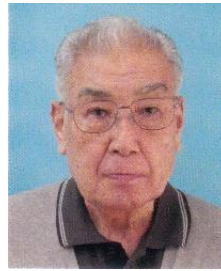
又、平成30年には待望のソフトボール専用グラウンドが完成し、多くの人たちに喜ばれています。

協会として市との交渉の中で、せめて協会主催のゲームは使用料無料で開催できるよう願うものであります。

この大きな節目の年に地道な努力を続け、次の80年、100年となりますよう関係各位に感謝申し上げ、協会発展をご祈念申し上げます。

ソフトボールに携わって

横須賀ソフトボール協会
参与 中村 英夫



協会創立70周年おめでとうございます。私とソフトボールとの出会いは、勤務していた消防署に3～4歳の息子さんを連れて、よく消防車の見学に

来られていた初代理事長の山根先生とお会いし、色々とお話をしてからです。以来、各大会、関東大会、国体の審判員として参加出来た事です。各地の審判員との交流でソフトボールの真髄を極めさせていただきました。参与の職を与えられましたことは、光栄の到りと存じております。今後の横須賀ソフトボール協会の益々の御発展を祈念するとともに、協会員の方々の御健闘をお祈り致します。

横須賀ソフトボール協会
参与 大井正男



横須賀協会の設立は日ソ協、県ソ協の2年後。県内支部では川崎、横浜に次ぐ歴史ある協会です。チームの

活躍も見事。小学生男子、エルデストが全国を再三制覇。他の種別も県大会で何度も優勝。これらは長年の念願であったソフトボール優先球場実現の原動力となりました。選手、関係者に感謝、感謝です。

小生の協会入会のきっかけは、地元児童チームを引率し試合に臨んだ時、ここでルール習得の未熟さを痛感。これを機に約30年前、審判資格を取得し入会。この時、市民大会出場チーム数は男女120。しかしこの10年間、チーム数は減少傾向。少子化、高齢化が続く中、協会皆様の知恵、実行力でこの懸案を乗り越え、70周年を節目としてさらなる協会の飛躍を期待します。

協会 70 年を振り返る

横須賀ソフトボール協会

理事長 唐澤 清男

横須賀ソフトボール

協会は、岡本慶次郎

氏、矢島信治氏、石

井 昭氏のご尽力に

よって昭和 26 年4月



に設立されました。新型コロナウイルス感染症が多大な影響を及ぼしている中で、紆余曲折を経ながら創立 70 周年を迎えることが出来ました。創立 30 周年記念式典は昭和 58 年 2 月 5 日、35 周年は昭和 61 年 10 月 25 日、40 周年は平成 3 年 12 月 15 日、50 周年は平成 13 年 12 月 9 日、60 周年は平成 23 年 12 月 10 日にそれぞれ開催されました。

協会の初代会長は岡本慶次郎氏・二代目松岡省四郎氏・三代目吉井 貫氏・四代目石渡得司氏・五代目山下成美氏・六代目会長に平成 24 年 4 月に青木哲正氏が就任しました。横須賀のソフトボールの普及は、中学女子のクラブ活動から芽を吹き、高校女子の横須賀第一高校・横須賀大津高校・横須賀市立商業高校・三浦高等学校、そして一般女子の東芝横須賀工場、家庭婦人のメッツ・じゃじゃママファイターズ・ピンキーズ・追浜フラワーズ・久里浜ソフトと引き継がれ、一般男子、少年少女、子ども会と普及していきました。一般女子が一步も二歩も男子をリードしていました。仮に東芝横須賀工場・関東自動車工業が現在も拠点を横須賀に置いていたら、横須賀のソフトボールはどのような変わり方をしたのでしょうか・・・？少年少女の初期は久留和子供会・浦賀バンビーズが頑張り、現在は横須賀選抜・横須賀女子が素晴らしい成績を残しております。一般男子は初期の頃、防衛庁関係と教員が中心で、陸上自衛隊久里浜・三浦高等学校教員・防衛大学校職員・横須賀大津クラブ・横須賀レイダースが全国大会、関東大会等に出場し活躍しました。一時期、一般男子の登録は 130 を越え

た時もありましたが、少子高齢化の影響もあり、現在は一般男子 26・壮年男子 1・実年男子 1・一般女子 12・高校 6・中学 7・小学生男子 16・小学生女子 1・クラブ中学 2 チームが登録されています。横須賀ソフトボール協会は、昭和 59 年 4 月 1 日に新井美秋氏、柴田栄子氏の努力で会報誌『イリーガルピッチ』創刊号を発行、平成 6 年新春発行の 21 号から『ソフトボール横須賀』と改名、会報は年 3 回の発行でしたが、予算の関係上、73 号からは年 2 回の発行となっています。何度となく規約の改正、組織の改変をし、表彰制度の設立とチームの登録制を実施していきました。チーム登録の実施により、ブロック別に優勝チームを決定していた春季市民選手権大会・市民体育大会が、すべてオープン抽選によるトーナメント大会になり、真の実力を発揮する大会へと変わっていきました。登録制の実施に伴い、定時評議員会が年 1 回開催されるようになりました。青木哲正会長のご尽力により、平成 30 年 9 月追浜地区夏島に、横須賀ソフトボール協会の念願であったマウンドのない、70 メートルのホームランネットが 2 面張れるグラウンドがオープンしました。その結果、試合運営がスムーズに出来るようになり、他県他市との招待試合、県協会、連盟等の主催・共催の大会が多く出来るようになりました。70 年間支えて頂いた横須賀市・横須賀市体育協会・神奈川県ソフトボール協会・各支部協会並びに審判員・チーム関係者・協会役員の方々に厚くお礼申し上げます。横須賀ソフトボール協会の基盤・競技力・審判技術力の向上にご尽力された方々の中で、吉井 貫氏、片倉 茂氏、山根 康熙氏、石渡 得司氏、山下成美氏、池田 茂氏、長谷川 貞男氏、新井美秋氏、澤田 賢昭氏、鈴木 幸太郎氏の功績を特に忘れることは出来ません。

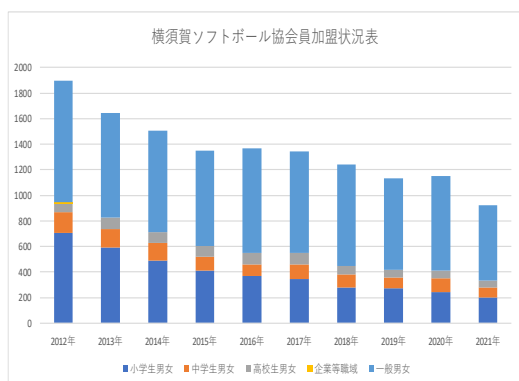
横須賀ソフトボール協会のこれからの活動にご協力を宜しくお願い致します。

横須賀ソフトボール協会
常務理事(総務委員長)
大橋昭夫



下記表は毎年横須賀市役所文化スポーツ観光部スポーツ振興課に提出している種目団員加盟状況表です。

年齢区分	平成24年 2012年	平成25年 2013年	平成26年 2014年	平成27年 2015年	平成28年 2016年	平成29年 2017年	平成30年 2018年	平成31年 令和元年 2019年	令和2年 2020年	令和3年 2021年
小学生男女	704	593	490	409	370	345	281	275	244	203
中学生男女	163	141	136	112	90	116	100	80	108	75
高校生男女	65	91	89	80	90	90	68	62	58	55
企業等職域	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般男女	951	820	789	746	815	790	792	717	744	592
計(人)	1896	1645	1504	1347	1365	1341	1241	1134	1154	925



過去10年間で971名のソフトボーラーが減少しています。

全年齢区分では51.2%の減少率。

小学生男女71.2%、中学生男女53.9%、高校生男女15.4%、一般男女37.8%で小学生男女の減少率が最も高いです。

若年層の競技人口減少に歯止めをかけソフトボール競技人口の維持拡大が急務です。

小さい規模からはじめ、横須賀ソフトボール協会関係者の大人がやらねばならない事だと思います。具体的内容は、

- ・ウインドミル投法の指導をきっかけとした、ソフトボール体験プログラムの実践。
- ・指導者の養成と育成。

しかしながら、いまだに新型コロナウイルスの感染は拡大していて収束の目途は立っていません。今後しばらくは感染拡大防止に取り組みながらスポーツ活動を行う必要があります。

創立70周年を迎えて

横須賀ソフトボール協会
常務理事(財務委員長)
石井 信義



ソフトボール協会創立70周年を迎え、お祝い申し上げます。協会関係者と共に喜びを分かち合いたいと思

います。一般男女のチーム、高校、中学、小学校の役員、選手、関係者の方々と歩み向うしてきました。

今後も競技スポーツ、生涯スポーツとしてソフトボールの魅力を発信し発展していきたいと思

創立70周年の思い

横須賀ソフトボール協会
常務理事(審判委員長)
北岡 成元



この度、横須賀ソフトボール協会が70周年を迎えることができましたのも神奈川県ソフトボール協会をはじめとした、各協会の方々のおかげと存じます。

ここに深くお礼申し上げます。

私が審判に関わりましたのは自身の息子がソフトボールを始めた事がきっかけでありました。そして、審判員として24年目を迎える事が出来ました。その間お世話になりました諸先輩方に感謝申し上げます。

私が何より素晴らしく思うのは、大会運営のスタッフ、審判団、各チームの監督様、選手の皆様、保護者の皆様の熱い思いとひたむきさ、又、それを継続していける力強さが20数年前も現在も変わっていないという事です。現在、少子化でチーム数が減ってきておりますが、皆様の熱い思いが変わらなければ、これからも少年少女のソフトボールには明るい未来が待

ているのではないのでしょうか。この記念すべき年に審判委員長をさせて頂く事に感謝し、明るい未来を信じ、これからも精進して参ります。今後も関係各位の皆様のご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

横須賀ソフトボール協会
常務理事(指導者委員長)

白田 英夫



横須賀ソフトボール協会創立70周年記念、誠におめでとうございます。

昨年度より指導者委員長を仰せつかりまし

たが、昨年はコロナの関係で活動が何もできませんでした。又、今年度もなかなか難しいとは思いますが、指導者委員会としては県協会に依頼をして講習会などを積極的に行いたいと考えております。

又、県協会の指導者委員会も昨年より開かれておりませんので、各情報もなかなか入ってこない状況です。

ただ今年度はオリンピックが開催できれば、ソフトボールは神奈川県で試合がありますので、盛り上がりもかなりのものと思いますので、県協会並びに横須賀協会も活発な行動が出来ることを願います。

今年度は指導者委員会も技術委員会と一緒に、たくさん講習会などを横須賀で実現出来るよう、今年度は頑張ります。

70周年の長い歴史を刻んで頂きました先輩方、誠に有難うございます。これからも横須賀協会が80周年、100周年と関係者一丸になって頑張りたいと思います。

創立 70 周年を迎え

横須賀ソフトボール協会
常務理事(広報委員長)

石渡 信由



横須賀ソフトボール協会が設立され 70 周年を迎え、広報担当としてお祝い申し上げます。私が広報を

担当して早くも 8 年目が経過しました。以前は、原稿を集めて構成からすべてをそのまま印刷会社に任せていましたので、予算はかなり多く使用していました。現在は、財政緊縮を図るため構成等をすべて広報で行い印刷価格の縮小化を図っています。協会設立当時の広報担当は大変苦勞して誌面を作成していたのではないかと思います。当初の広報誌作成は現在と比べ誌面作成には時間が掛かったと思います。ソフトボール人口は徐々に増え写真を使い選手の活動を報告するのも大変ではなかったと考えられます。現在、広報誌は写真を多く掲載し、読者が読みやすいよう心掛けています。それもデジタルカメラの普及が大きな味方になりました。そういう点では今、大変助かっています。ところで、昨年コロナウイルス感染症のためソフトボール活動も制限され思うように活動ができない状況にあります。そのためソフトボール協会が 70 周年を迎えた現在、どれだけの情報を皆様に届けられるかわかりません。この 70 周年の節目を前進の機会として、更に読みやすい広報誌をお届け出来るように頑張ります。最後にこれまで 70 年間支えて頂いた審判団、チーム関係者、選手の方々に感謝するとともに、さらにこれからもご協力をお願い致します。

70周年に際して

横須賀ソフトボール協会
常務理事(技術委員長)

富樫 貴之



この度、横須賀ソフトボール協会は、70周年を迎えることができました。これも偏に、協会所属のチーム、選手、審

判員、記録員など関係者の御尽力の賜です。また、この間、日本協会、神奈川県協会、および、横須賀市の体育協会など、関連団体の御指導・御協力に対しては、感謝の念に堪えません。

技術委員会の業務としては、①技術の普及向上をはかる、②教室の開催と指導者の向上をはかる、③ソフトボール競技に使用する諸用具の調査研究を行う、の三項目が挙げられています。2020年のシーズンでは、コロナウイルスの影響で各種大会等の中止が相次ぎ、各チーム・選手の活動も様々な制約の下で行うことを余儀なくされてきました。コロナ後の状況がどうなっていくか、未だ不確定な部分も多いですが、今後も、県の技術委員会との連携のもと、チーム・選手の更なる競技力向上を目指し、活動していく所存ですので、皆様の御指導・御鞭撻をよろしく願いいたします。皆様の力で、横須賀のソフトボールを盛り上げていきましょう。

創立70周年を迎え

横須賀ソフトボール協会
常務理事(記録委員長)

飯島 和子



横須賀ソフトボール協会創立70周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。昭和44年度に

横須賀市に職が決まり、それからずーとソフトボール人生を歩み続け現在に至っております。

やはりソフトボールは、何歳になっても続けることで、仲間との愛、楽しさ、喜びを感じ、健康のためにも生涯スポーツとして続けたいと思います。さて、記録ですが、平成10年より前任の北川理事長より引継ぎ、現在は20名の方が登録してくださっています。皆さん各チームに所属しており、現役のプレーヤーの方達ばかりです。チームの試合はもちろん、プレーヤーとしても頑張っています。

年度末には、収計し一喜一憂しながら次に向けた反省もしている状態です。公式記録員は、大会の記録を感動、感激、少し迷い、自分で判断して記録しています。それから、一般男子で支部対抗戦に出場するチームは、必ず公式記録員が帯同しなければなりません!! どうぞご協力をお願いします。これからは、公式記録員の自覚を持って記録作成に望んでいきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

横須賀ソフトボール協会
常務理事(普及委員長)

長谷川 利一



70周年を迎えお慶び申し上げます。永きに渡りソフトボール競技を愛する方々、普及発展振興に御尽力を賜りました諸先輩

の方々の御努力御研鑽の賜物と深く感謝を申し上げる次第です。

昨年今年と新型コロナウイルス蔓延により活動も制限され思通りには行きませんし、小学生、中学生、高校生、一般、のチームや選手の減少が目立つ昨今です、非常に危機を感じております。

少子高齢化、ダイバーシティな時代ですが、生涯スポーツであるソフトボールを通じ老若男女、各世代が健康増進と楽しむことの出来る環境整備と裾野の拡大、普及促進が使命と考え、創意工夫、努力して行く所存です。皆様に

おかれましても横須賀のソフトボールを盛り上げて頂くことを、ご協力願ひ、それが、今後益々80年100年と当協会が拡大発展し続けることと考へます。

横須賀ソフトボール協会
理事(高体連)

姉川 洋平



横須賀ソフトボール協会創立70周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。横三地区高体連は、現在男子1・女子3チームですが、男

女ともに県を代表しています。少ないチーム数ですが、横須賀のソフトボールを盛り上げられるよう努めて参ります。協会の一層の御発展を祈念しております。

横須賀ソフトボール協会
理事(中体連)

大下内 政樹



70周年おめでとうございます。

現在、横須賀市内でソフトボール部が設置されているのは5校です。少しずつ部員が減少していま

が、プレーしている子どもたちはとても生き生きとした良い表情をしています。今後、ソフトボールが多くの世代でさらに普及し、盛り上がっていくことを願っています。

横須賀ソフトボール協会
理事(成人連盟)

角井 一司



皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。本年当協会は創立70周年の記念すべき節目を迎えることが

できましたことに、これまで永きにわたる皆様の深いご理解と温かいご支援に厚く御礼申し上げます。私が担当致します横須賀市成人ソフトボール連盟は昭和60年(1985年)より32回の横須賀市長・市議会議長・商工会議所会頭杯を運営してまいりましたが、昨年より役員を一新し、市長杯は協会主催の選手権大会と体育大会の上位推薦チームによる最高峰の戦いの場と位置づけ、議長杯は35歳以上で編成したチームによる大会、会頭杯は年齢55歳以上の大会と3つの大会を用意し、若手からシニア世代まで楽しめる大会運営を心がけ、いくつになっても明るく健康的に活動できる環境作りに努めてまいります。

今後とも一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

創立70周年を迎えて

横須賀ソフトボール協会
理事(女性連盟)

本橋 京子



横須賀ソフトボール協会創立70周年、おめでとうございます。

女性連盟より、平成17年から理事として加

えて頂いていますが、まだまだ勉強不足です。理事会の方々のご指導を頂き、協会と女性連盟のパイプ役として、お手伝いをしていきたいと思っています。

横須賀ソフトボール協会
理事(少年連盟)
宮川 交立



70周年の節目、現在の小学生の活動は、少子化に伴う加盟チームの減少で、大変厳しい状況になっています。しかし、ソフトボールを楽しみ、元気にプレーする児童の為に、環境を整え、活動の場を確保する努力を継続して行きたいと思っております。

横須賀ソフトボール協会
理事(少女連盟)
齊藤 優季



創立70周年おめでとうございます。横須賀ソフトボール協会が更に発展していけるよう、たくさんの子供たちにソフトボールの魅力を伝えていきます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願いします。

横須賀ソフトボール協会
理事(壮年)
市毛 紀光



横須賀ソフトボール協会、70周年おめでとうございます。2020年度から壮年担当理事になりました市毛です。70周年というおめでたい年に協会に携わる事が出来て、大変光栄な事だと思っております。これまで支えてくださった皆様には大変感謝しております。80年、90年、100年と協会に携わり横須賀のソフトボールの発展に努めていきたいと思っております。

まだまだ新米理事ではございますが、皆様の

ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

横須賀ソフトボール協会
理事(実年)
後藤 直樹



「私が成人ソフトボールのチームに初めて所属したのは、38年ほど前だったと記憶していますが、当協会も70年の節目を迎えるに至り、目の前の困難な状況に向き合いながら、新たな課題、先を見据えた取組みについて、プレーヤーズファーストを大切に、鋭意、取組んでまいります。」

横須賀ソフトボール協会
理事(審判)
北之迫 洋



横須賀ソフトボール協会創立70周年、ここへ至るまでの諸先輩方のご尽力に対し敬意を払うとともに、理事として運営にかかわる経験をさせていただいていることに感謝しております。

特に近年の社会情勢、自然環境の変化はとても大きく、未来に向けて全世界的にSDGs(持続可能な開発目標)として、多面的な取り組みがなされています。私たち横須賀ソフトボール協会においても、未来に向けて多くの課題が残されております。これまでの70年を継承しつつ、将来にわたってソフトボールができる取り組みが求められます。現在の課題、将来の課題を乗り越え、横須賀でソフトボールが末永く楽しめるよう、多くの人たちの知恵と力が集まることを願っております。